



## 日本共産党 石田 秀三 議員

- 1 市税の滞納処分について
- 2 耕作放棄地対策について

**質問1** 給与や年金が入金された口座から、通知なしで滞納税を一括して差し押さえられ引き落とされた例が増えている。生活できなくなるほどの差押えは生存権の侵害であり、行き過ぎである。地方税法で「生活を著しく窮迫させる恐れ」があるときは、滞納処分してはならない、また国税徴収法でも給与や年金は「差押禁止財産」とされている。問答無用の引き落としはやめ、本人と直接相談することを求める。

**答弁1** 差押については、法の規定により督促、催告の

のち行なっているが、相談があれば生活状況などを聞き取り、個々の状況に応じて納付額を決めている。口座の差押えについては、本人との接触到に努力したい。

**質問2** 鈴鹿市でも農地の「耕作放棄地」が増えている。「休耕地」から「放棄地」さらに「荒廃地」へと進む流れを食い止める対策が必要ではないか。「荒廃地」を増やさないために、集落単位やボランティアでの取り組みを応援する体制作りを求める。

**答弁2** 平成22年度末の耕作放棄地は約490ha、そのうち「作付けしていない耕地」268ha、「荒廃した耕作放棄地」222haであり、増加している。再生への取り組みも行なっているが、耕作放棄地にさせないことが大切であり、農業振興施策を推進していきたい。



## 日本共産党 森川 ヤスエ 議員

- 1 介護保険料の大幅値上げ軽減策を
- 2 小中学校普通教室へ空調機設置を

**質問1** 年金は右肩下がりで、介護保険料は右肩上がり。年金収入で生活する1号被保険者に基準額5千377円の介護保険料は非常に高い。第5期介護保険料の大幅値上げの原因になっている保険料収納率差額や地域支援事業費・調整交付金差額は、第1号被保険者の保険料に上乘せすべき性質のものではないので国に応分の負担を求めること、それまでは市が負担し保険料が5千円を超えないように対策を講ずることを求める。

**答弁1** 平成24年度から26年度の介護保険料は、第5

期介護保険事業計画で定めるが、第4期に比べて介護給付費準備基金がなく、国の調整交付金が5%を下回るため、保険料上昇は避けられないところである。

**質問2** 夏の長期休暇があるので必要ないとの答弁は一般社会の常識から大きくずれている。PTAが頑張っで資金集めをし、学校に扇風機を寄付していることが証明している。本来学校には健康にして学ぶにふさわしい環境基準があり働く社会には働く現場にふさわしい健康管理上の基準があり、温湿度計を置いてきちんと条件を把握して対応するよう求める。

**答弁2** 水筒を持参させての水分補給、アイスクールの使用、グリーンカーテン設置、校庭の芝生化や、PTAの寄付により小学校で3割、中学校で6割に扇風機が設置されており、暑さ対策に取り組んでいる。



## 市民クラブ 太田 龍三 議員

- 1 観光振興について
- 2 避難所について

**質問1** シティセールスの効果と市長の役割、すずか応援寄附金の実績、鈴鹿サーキットへの支援、外国人観光客の誘致や式年遷宮を見据えた取り組みは。

**答弁1** 効果を数字で表すのは難しいが、ビジネス大使には市内産品について、営業活動の協力をいただき一定の効果があった。トップセールスが効果的であるので、市長自ら様々な場面でPRできる機会を創り、現戦略の具体化に取り組む。すずか応援寄附金は平成20年度から23年度までの実績で、計29名より、約783万円の寄附をいた

だいた。鈴鹿サーキットへの支援としては、「鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会」や関係団体と連携を図りながら、更なるPRに努めたい。外国人観光客誘致には、三重県外国人観光客誘致促進協議会に参加し、PR活動に努めている。また、式年遷宮を見据えて民間旅行会社に積極的にPRし、旅行商品の企画販売を促進したい。

**質問2** 避難所の数と収容能力、現時点の避難ビル協定数と収容人数。また高齢者率の高い地域における弱者の誘導避難について。

**答弁2** 緊急避難所は201施設で1万4285人、収容避難所は94施設で4万8250人、2次避難所は13施設で139人。現在の避難ビル協定数は、10施設で収容可能人数は1万4600人。弱者の避難誘導は、自主防災隊や消防分団員の協力を得たい。